

教員活動状況報告書

提出日：令和3年12月5日

所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名：岩橋 和彦 職位：教授

役 職：健康管理センター長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（学習データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

教育活動については教授として生理学や臨床生理学および総合臨床検査学（国家試験対策）の講義・実習を行なうとともに、大学院環境保健学研究科の学生を精神神経科領域の学会発表や学術雑誌への論文投稿をさせるべく指導している。

大脳生理学を中心に生理学的基礎を学生に理解させ、国家試験を通り臨床検査技師という医療従事者として、また医科学者として人の役に立つ人材を世に輩出することに責任を負って行なっている。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	1 年	約 90
生理学実習	臨床検査技術学科	必修	2 年	約 90
臨床生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	3 年	約 90
臨床生理学実習	臨床検査技術学科	必修	3 年	約 90
卒論指導	臨床検査技術学科	選択	2－4 年	約 20
生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	1 年	約 90

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

自分で学び自分で人生を切り開く努力ができる学生を伸ばす。個々の才能をつぶさない。学生が自分から興味をもって医学、医科学を学べるような授業を行うため、資料も日進月

歩の医学の進歩に遅れない内容のものを、学会などで情報を仕入れて刷新していく。教科書に載っている内容のみならず、ICT で最新の情報を仕入れ、学生に分かりやすく教える。興味を持った学生は自主的にさらに広範囲で高いレベルでの知識探求、思考力の開発に努めるよう指導していく。こうして、自分から積極的に学ぶ姿勢を持った学生を指導していき、学生には確固不拔の医学への探求精神を涵養していきたいと思う。できれば大学院にも進学して、研究もでき、医学を包括的に学ぼうとする学生を望む。将来人の役・社会の役に立つ医療従事者を育てることで、できれば自分の陰徳も積みたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

単に教科書レベルの学習のみならず、自ら進んで専門書などやインターネットでの情報も含めて、幅広く学んでいける学生を育成したいと考える。

そのため、日進月歩の医学の進歩についていき、かつ学生の探求心をくすぐるような事業内容にしたいと考えている。

そのため、毎年学会や講演会などに出席し、様々な情報を採集し、それをわかりやすく学生にも教えている。

また、臨床検査技師は、特にエコー検査（超音波検査）などの画像については、「医師の診断を助けるばかりか、主役的な立場になってきている（医師はほとんどエコーなどは取れない場合がある）。従って、エコー検査などの画像診断に関してはチーム医療のリーダー的な存在にならねば、今後臨床検査技師の存在価値はないと思われる。

麻布大学においては将来的にエコー検査や遺伝子検査など、臨床検査技師がイニシアティブをとるべき分野に関して、他大学に先たち重点的に教育すると思に、人間性豊かな、患者さんに配慮できる医療従事者を育てるため、心理学も導入してコミュニケーション力をつける教育も行っている。

大学院では院生の研究意欲を高揚し、自由な発想で論文を作成するよう努めた。

アクティブラーニングについての取組

ICT の教育への活用

学理を使い、時代の最先端の技術になるべく遅れないように努力している。

アクティブラーニングについての取組

できる限り機会があれば学んでいく

また、最新の医学情報を学生に提供するため、講義実習に生かすためにも医師・産業医としての研修も積極的に学びたい。そして研究にも生かしたい。

ICT の教育への活用

学理を使い、時代の最先端の技術になるべく遅れないように努力している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） B

②学生の理解度の把握（A～C） A

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） A

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C） B

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験の勉強はとにかく大量の知識を詰め込まなければ突破できないという方針で学生に取り組むよう指導している。

1 日 8 時間以上勉強すること；時には痔ができるくらい毎日長時間勉強する必要があると口酸っぱく指導している。

従って、学生には 4 年生で総合臨床検査学演習というところで、繰り返し過去の標準的な難易度の良問をじっくり解かせて、同時に関連キーワードも一緒にまとめて覚えさせている。

臨床検査技術学科では毎年、各科目の試験範囲の要点をまとめた「マズコレ」という冊子を学生に早期に配り、それを暗記させながら、先ほど述べたように、過去の良問を解きながらそれに関連する項目をキーワードごとにまとめさせ、マズコレに書き込んだり、表にまとめたものを追加で張り付けさせて利している。

学内及び、業者の模擬試験を積極的に受けさせて、問題になれるように勧めている。

学内の総合臨床検査学の単位は国家試験受験の必修科目としているので、これで総合臨床検査学の学内模試に合格点が取れなければ、受験させない方針を学科でとっている。

最終的には追再試（俗にいう一発勝負）に通らなければ完全に国家試験の受験資格を失うので、学生には余裕をもって国家試験に通るよう促している。

なお、学内の模擬試験で成績の悪い学生には居残りで大学に残って勉強することを義務付けている。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生の評価を謙虚に聞いて改善している

② ①の結果はどうでしたか。

今のところ大した批判もなくやっている

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

今まで通り謙虚に学生の要望に耳を傾けて行う

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

臨床検査技師の臨床現場の状況を動画などで見せて臨場感を感じてもらいながら **国家試験合格のための**学習意欲を上げていきたい。生命・環境科学部 臨床検査技術学科において、最終的には国家試験の合格率を 100% **を目指したいので**、お手本となる将来のビジョンを機会があるごとに話をし、講義・補修で学生のモチベーションを維持するように努めている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

生命・環境科学部 臨床検査技術学科の講義については今のところ批評はない。

卒論の指導した学生は、3年続けて古泉賞を受賞し、その学生は大学院に進学して研究に
いそしんでくれている。

これまでに大学院環境保健学研究科の博士前期課程に進学した学生はいずれも、在籍中に修士論文を仕上げそれをもとにしてしかるべき学会誌に投稿を果たしており、受理もされている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

実習などで支障がない限り、できる限りそのような機会には出て知見を高めたいと考える。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的には今年度から国家試験の合格率を 1%でもあげる。自分から医学に興味をもって学んでいく学生を一人でも多く育てたい。

長期的には麻布大学臨床検査技術学科卒の技師長や主任を特に関東一円で、あるいは日本国内に増やしたい。それにより、先輩が麻布大学の後輩を就職活動などの機会に引っ張ってくれば学生の就職率も維持できる。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

TP チャート

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有	無
---	---

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡